

令和3年度授業改善推進プラン

清瀬市立清明小学校 第1学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・文法(促音・拗音・長音・助詞「は」「を」「へ」)の使い方が定着していない児童が各クラス5割以上いるため、文法の理解と定着が必要である。 ・聞きかたの基本姿勢、基本的な話し方などを身に付ける必要がある。 ・読書経験の差から、読書への興味関心や意欲、読書量が少ない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文法の定着のために、文型を使うことで書き方に慣れさせていく。 ・5年生の学力調査では、記述の得点が低かった。国語では、1年生から自分の言葉を用いて考えや理由を書く活動を取り入れる。 ・国語の授業の中で、聞き方の姿勢を意識するよう声かけをし、身体で覚えていくようにする。話型を示すことで、事柄の順序を考えて話すことができるようにする。 ・図書館支援員の方と連携し、いろいろなジャンルの本の読み聞かせをしたり、児童同士が好きな本を紹介したりする活動を設定する。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・「10の合成、分解」の2分間テストで合格した児童は約5割であったため、「いくつといくつで10」を正確に覚える必要がある。 ・たし算、ひき算の式を見て計算をすることはできるが、文章題になると、立式ができない児童がいる。文章の内容を正確に読み取り、問題のイメージを掴ませることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習やパワーアップタイムを活用し、必要な児童は「10の合成、分解」を繰り返し学習する時間を確保する。また、授業の導入でも、フラッシュカード等を用いて「いくつといくつで10」を繰り返し指導していく。 ・6年生の学力調査でも記述式の問題が苦手である結果が出ている。文章題では、ブロック操作や○を描くなど視覚的に問題内容をイメージさせたり、文章題のキーワードの言葉に線を引かせて問題内容を把握させる。 	
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・観察カードの気付いたことを、文章や絵で詳しく表現することができる児童が少ない。 ・観察や自然探検をした後、疑問に思ったことやもっと知りたいことを考えることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察カードに詳しく記録するための観点や、詳しく絵で表現した手本を全体に提示する。 ・観察や自然探検をした後に、全体で情報共有し、疑問をもたせやすくしたり、友達の疑問や発言からもっと調べてみたいと思えるようにする。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で歌唱・鍵盤ハーモニカの指導ができなかったため発声やタンギングが身に付いていない児童が多い。 ・鍵盤ハーモニカの奏法でつまずく児童がいる。拍に合わせて旋律を演奏することはできるが、正しい指使いで演奏することが苦手な児童が3割程度いる。 ・拍に合わせて正しいリズムを打つのが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞やサイレント奏法でイメージをもたせながら、時期がきたら指導する。 ・必要な児童に鍵盤ハーモニカの個別指導を重点的に行う。 ・拍打ちとリズム打ちを意識させる。リズム打ちに小物打楽器の使用や身体表現などを取り入れ、楽しく活動しながら身に付くようにする。 ・鑑賞では、国語の学習で学んだことを思い出し、自分の思いや想像したことを伝えられるようにする。 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・現在までの生活体験の違いから、はさみの使い方、のりやテープを使う量の調整などが苦手な児童が3割程度いる。 ・表現活動において、自分の思いや想像したことを表現するのに苦手意識がある児童が3割程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画に基づいて、クレヨン、絵の具、ハサミなどの用具の使い方や指先を使う活動を取り入れていくことで、基本的な使い方に慣れさせる。 ・色々な向きで見せることで見方を変えたり、使いたい色や、表し方を選択させることで、子供の思いを広げ、作品につながるようにする。 ・鑑賞時に作品発表をして、自分の思いや想像したことを伝えられるようにする。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・生活体験の違いによって、技能面(固定道具を使った運動遊び等)において遊び方や遊ぶ意欲の差が見られる。 ・基本的な動きや技能を身に付けることが不十分な子や、その時の気分によって運動をしない児童が各クラス1割程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達同士での教え合い活動(得意な子から不得意な子への教え合い、声かけなど)や個別指導を取り入れていく。 ・たくさん褒めることや、それぞれの運動の特性や楽しさを味わわせる。場や授業展開を工夫することで、「楽しそう」「やってみよう」をより多く引き出し、どの運動にもすすんで関わられるようにする。学習カードで自分の目標を設定し、意欲を引き立てる。 ・コーディネーショントレーニングを通して、体をイメージ通りに動かすことができるようにする。 	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した価値項目が、実生活に結びついていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を拡大して、場面のイメージをもちやすくしたり、登場人物の心情に寄り添いやすくなるように似た体験談を紹介し合ったりして、児童の思考を価値項目に近づけさせる。 ・教材文の内容を自分事として捉えることができるように、自分の生活をふり返り、気付いたことを記録させるようにする。 	

※ 枠の大きさは適宜調整して、1枚に収まるように作成してください。